



平和な千年期は来るか？

宗教界の大欺瞞に要注意

大争闘シリーズ No.13



大争闘シリーズ No.13

平和な千年期は来るか？

宗教界の大欺瞞に要注意

(キリストとサタンの大争闘 41 章)

目次

Contents

神の怒りの降下	1
真相が明らかになる日	4
争闘と流血	8
地上の荒廃とサタンの幽閉	11
千年期	15
悪人の審判	19

はじめに

今日世界は誤ったミレニアム(福千年期)の大欺瞞に望みをかけている。

「旧教徒、新教徒、それに世俗の人たちもみな同じように、力のない形だけの敬虔を受け入れるであろう。そして彼らはこの合同の中に、全世界を改心させるための一大運動と、長く待ち望んでいた福千年期の先触れを認めるのである」大争闘下 351

聖書のミレニアム(千年期)とは、どんなものか。悪魔と悪天使たちはこの期間どうするだろうか？義人たちは、どんな重要なことを果たすのか？

義人(聖徒)たちは、サタンと悪天使と悪人たちの裁きに参加する。

サタンと悪天使たち、悪人たちも永遠に滅ぼされることを納得するほどの神の公平な裁き！

第一の死と第二の死がある！第一の復活と第二の復活がある！

キリストの再臨、昇天
第一の復活



キリストと聖徒達降臨
第二の復活

神の怒りの降下

「彼女の罪は積り積って天に達しており、神はその不義の行いを覚えておられる。……彼女が混ぜて入れた杯の中に、その倍の



量を、入れてやれ。彼女が自ら高ぶり、ぜいたくをほしいままにしたので、それに対して、同じほどの苦しみと悲しみとを味わわせてやれ。彼女は心の中で『わたしは女王の位についている者であって、やもめではないのだから、悲しみを知らない』と言っている。それゆえ、さまざまの災害が、死と悲しみとききんとが、一日のうちに彼女を襲い、そして、彼女は火で焼かれてしまう。彼女をさばく主なる神は、力強いかたなのである。彼女と姦淫を行い、ぜいたくをほしいままにしていた地の王たちは、……彼女のために胸を打って泣き悲しみ、……『ああ、

わざわいだ、大いなる都、不落の都、バビロンは、わざわいだ。おまえに対するさばきは、一瞬にしてきた』(黙示録 18:5-10)。

「彼女の極度のぜいたくによって富を得た」地上の商人たちは、「彼女の苦しみに恐れをいだいて遠くに立ち、泣き悲しんで言う、『ああ、わざわいだ、麻布と紫布と緋布をまとい、金や宝石や真珠で身を飾っていた大いなる都は、わざわいだ。これほどの富が、一瞬にして無に帰してしまうとは』(黙示録 18:3,15-17)。

これが、神の怒りの日にバビロンにくだる刑罰である。バビロンは罪の升目を満たした。その時は来た。滅亡の時は熟した。

神のみ声が神の民を捕われの身から返されるとき、大きな人生の戦いにおいてすべてを失った人々に恐るべき覚醒が起こる。恵みの期間が続いていたとき、彼らはサタンの欺きに盲目となり、自分たちの罪の行為を正当化してい

た。富んでいる者は、貧しい者に対し自らおごり高ぶっていたが、もともと彼らの富は神の律法を破ることによって得たのであった。彼らは、飢えた者に食べさせ、裸の者に着せ、正義を行い、あわれみを愛することを怠っていた。彼らは自らを高め、人々の尊敬を受けることを求めている。ところが、今や彼らは、彼らを偉大にしていたものをすべてはぎ取られ、何も持たず、すべてを失うのであった。彼らは、自分たちが創造主よりも好んだ偶像が破壊されるのを見て恐れおののく。彼らは、自らの魂を地上の富と快樂に売り渡し、神に対し富もうとしなかった。その結果、彼らの一生は失敗に終わり、彼らの快樂は苦しみとなり、彼らの財宝は朽ちる。一生かかって得たものが瞬く間に消え去る。富める者は、彼らの建てた豪華な邸宅が破壊され、金銀が四散するのを見て悲しむ。しかし、彼らの嘆きは、自分たちが、これらの偶像と共に滅びるといふ恐怖のために、沈黙に変わる。

悪人たちは、無念の思いに満たされる。それは、彼らが神と同胞に対して、その義務を怠り罪を犯したことに對してではなく、神が彼らに勝利されたためである。彼らは、自分の悪の結果として受けるべき刑罰に對して嘆く。しかし彼らは、犯した罪惡そのものを悔いるのではない。彼らは、できれば勝利を収めようとして、ありとあらゆる手段を講じるのである。

世の人々は、彼らが嘲笑、愚弄し、撲滅しようとしたその当人たちが、疫病、嵐、地震にも耐えて何の害も受けないのを見る。神の律法を犯す者に対しては焼き尽くす火であられる神も、その民にとっては安らかな隠れ場なのである。

真相が明らかになる日

人々の歡心を得るために真理を犠牲にした

牧師たちは、今、自ら主張してきた教えの性質と影響を認める。彼が講壇に立ったときも、道を歩いたときも、人生の様々な場合に人々と交わったときも、全能の神の目が彼と共にあったことが明らかになる。人々を偽りの避難所に休ませるように導いたすべての心の思い、書いたすべての文字、語ったすべての言葉、すべての行動は、種まきであった。そして今、哀れな失われた魂に取り囲まれて、彼はその収穫を見るのである。



「彼らは手軽に、わたしの民の傷をいやし、平安がないのに、『平安、平安』と言っている。」
「あなたがたは偽りをもって正しい者の心を悩ました。わたしはこれを悩まさなかった。またあなたがたは悪人が、その命を救うために、そ

の悪しき道から離れようとする時、それをしないように勧める」と主は言われる（エレミヤ 8:11、エゼキエル 13:22）。

「わが牧場の羊を滅ぼし散らす牧者はわざわざいである。……見よ、わたしはあなたがたの悪しき行いによってあなたがたに報いる。」「牧者よ、嘆き叫べ、群れのかしらたちよ、灰の中にまるべ。あなたがたのほふられる日、散らされる日が来たからだ。……牧者には、のがれ場なく、群れのかしらたちは逃げる所がない」（エレミヤ 23:1,2;25:34,35）。

牧師たちと人々は、自分たちが神との正しい関係を持ってこなかったことを悟る。彼らは、自分たちが、すべて公正で義である律法の創始者に反逆してきたことを認める。神の戒めを放棄したことが、無数の罪悪、不和、憎悪、不正の原因となり、ついに地上は一大戦場、腐敗の巣くつとなった。これが、真理を拒み、誤謬を信じることを選んだ者が見る光景である。神に

従わず、不忠実であった者が永遠に失ったもの、すなわち永遠の生命に対して感じる渴望は、到底言葉で言い表すことができない。世からその才能と雄弁をもてはやされ崇拜されていた人物は、今や、そうしたものの真相を見る。彼らは、罪によって一切を失ったことを知り、これまであざ笑っていた忠実な聖徒たちの足下にひざまずいて、彼らが神に愛されていたことを認める。

人々は、今まで自分たちが欺かれていたことを知る。彼らは、破滅に陥ったことを互いに責め合う。しかし彼らはみな一致して、最も激しい非難を牧師たちに浴びせる。不忠実な牧師たちは、耳ざわりのよいことを語ってきた。彼らは、聴衆に、神の律法を無視させ、律法を聖く守る人々を迫害させた。今、これらの教師たちは、絶望して、自分たちの欺瞞行為を世の前に告白する。群衆は激しい怒りに燃える。「我々は失われてしまった！我々の滅びの原因はあなたがただ」と彼らは叫ぶ。そして彼らは、偽り

の教師たちにつめ寄る。かつては彼らを称賛して止まなかった者が、今は恐るべき呪いの言葉を浴びせかける。かつて彼らに栄冠を与えたその手が、彼らを滅ぼすために上げられる。神の民を滅ぼすために用いられることになっていた剣が、今、その敵を滅ぼすために用いられる。至るところに、争闘と流血が起こる。

争闘と流血

「叫びは地の果にまで響きわたる。主が国々と争い、すべての肉なる者をさばき、悪人をつるぎに渡すからである」(エレミヤ 25:31)。大争闘は、六千年にわたって続いてきた。神のみ子と天使たちは、人類に警告し、啓発し、そして救うために、悪魔の力と闘ってきた。しかし今や、すべての者が決定を下した。すなわち悪人は、神に反抗するサタンの軍勢に加わった。神が、その踏みにじられたご自分の律法の権威

を擁護される時が来たのである。今や争闘はサタンとの争闘だけでなく、人間同士の争闘ともなった。「主が国々と争い」「悪人をつるぎに渡すからである。」

「その中で行われているすべての憎むべきことに対して嘆き悲しむ人々」に、救いのしるしがつけられた。かつてエゼキエルを見た幻の中で、その手に滅ぼす武器を持った人々に「老若男女をことごとく殺せ。しかし身にしるしのある者には触れるな。まずわたしの聖所から始めよ」との命令が与えられたように、今や死の天使が出ていく。「そこで、彼らは宮の前にいた老人から始めた」と預言者は言っている（エゼキエル 9:1-6）。滅びの働きは、人々の霊的保護者と称してきた人々から開始される。偽りの夜回りがまず第一に倒れる。あわれんだり助けたりする者はない。老若男女がすべて滅ぼされる。

「主はそのおられる所を出て、地に住む者の

不義を罰せられる。地はその上に流された血をあらわして、殺された者を、もはやおおうことがない」(イザヤ 26:21)。「エルサレムを攻撃したもろもろの民を、主は災をもって撃たれる。すなわち彼らはなお足で立っているうちに、その肉は腐れ、目はその穴の中で腐れ、舌はその口の中で腐れる。その日には、主は彼らを大いにあわてさせられるので、彼らはおのおのその隣り人を捕え、手をあげてその隣り人を攻める」(ゼカリヤ 14:12,13)。自分たち自身の激しい怒りによる争いと、神のあわれみを混じえない怒りの恐るべき降下によって、地の悪しき住民たちは、聖職者も為政者も民衆も、金持ちも貧乏人も、地位の高い者も低い者も、倒れてしまう。「その日、主に殺される人々は、地のこの果から、かの果に及ぶ。彼らは悲しまれず、集められず、また葬られずに、地のおもてに糞土となる」(エレミヤ 25:33)。

地上の荒廃とサタンの幽閉

キリストの再臨の時、悪人は、全地の表から一掃される。すなわち、主イエスの口の息によって殺され、来臨の輝きによって滅ぼされる。キリストはご自分の民を神の都に連れて行かれ、地上には住民がいなくなる。「見よ、主はこの地をむなしくし、これを荒れすたれさせ、これをくつがえして、その民を散らされる。」「地は全くむなしくされ、全くかすめられる。主がこの言葉を告げられたからである。」「これは彼らが律法にそむき、定めを犯し、とこしえの契約を破ったからだ。それゆえ、のろいは地をのみつくし、そこに住む者はその罪に苦しみ、また地の民は焼かれ」る（イザヤ 24:1,3,5,6）。地上は荒涼たる荒野と化す。地震によって倒壊した都市や村落の廢墟、根こそぎにされた木々、海から投げ出されたり、



地中から引き裂かれたごつごつした岩石が、地の表に散らばり、一方、広大な洞窟は、山々がその基から裂けてしまった跡を示している。

ここで、旧約時代に行われていた、贖いの日における最後の厳粛な務めに予表されていた事件が起こる。至聖所における務めが完了して、罪祭の血によって、イスラエルのもろもろの罪が聖所から除かれたときに、アザゼルの山羊は、生きたまま主の前に連れてこられた。そして大祭司は会衆の前で、

「イスラエルの人々のもろもろの悪と、もろもろのとが、すなわち、彼らのもろもろの罪をその上に告白し」た（レビ記 16:21）。それと同じ



ように、天の聖所における贖いのみ業が完了するとき、神と聖天使たちと贖われた大群の前で、

神の民の罪がサタンの上に置かれるのである。神の民に犯させたもろもろの罪悪の責任が彼にあることが宣言される。アザゼルの山羊が、人里離れた地に送られたように、サタンは、住む者もない荒涼たる荒野と化した地上に追放される。

黙示録の記者は、サタンが追放されることと地が混沌とした荒廃状態になることを預言し、しかも、このような状態が千年間続くことを宣言している。キリスト再臨の光景と悪人の滅亡を描いた後で、預言には、続いてこう言われている。「またわたしが見ていると、ひとりの御使が、底知れぬ所のかぎと大きな鎖とを手を持って、天から降りてきた。彼は、悪魔でありサタンである龍、すなわち、かの年を経たへびを捕えて千年の間つなぎおき、そして、底知れぬ所に投げ込み、入口を閉じてその上に封印し、千年の期間が終るまで、諸国民を惑わすことがないようにしておいた。その後、しばらく

の間だけ解放されることになっていた」(黙示録 20:1-3)。

「底知れぬ所」という言葉が、混乱と暗黒の状態にある地球を象徴していることは、他の聖句によって明らかである。地球の「はじめ」の状態について、聖書には、「地は形なく、むなしく、やみが淵のおもてにあり」と言われている(創世記 1:2 [ここで「淵」と訳されている言葉は、黙示録 20:1-3 で「底知れぬ所」と訳されている言葉と同じである])。預言では、地が、少なくとも部分的に、この状態に戻ることが教えられている。預言者エレミヤは、神の大いなる日を待ち望んでこう言っている。「わたしは地を見たが、それは形がなく、またむなしかった。天をあおいだが、そこには光がなかった。わたしは山を見たが、みな震え、もろもろの丘は動いていた。わたしは見たが、人はひとりもおらず、空の鳥はみな飛び去っていた。わたしは見たが、豊かな地は荒れ地となり、

そのすべての町は、主の前に、その激しい怒りの前に、破壊されていた」(エレミヤ 4:23-26)。ここが、サタンと悪天使たちが、千年間住むところとなる。サタンは、地球に制限されているから、他世界に近づいて、墮落したことの無い者たちを試み悩ますことは決してできない。このような意味において、サタンはつながれるのである。彼が働きかけることのできる者が、誰もいなくなってしまうのである。幾世紀にもわたって彼のただ一つの楽しみであった欺瞞と破壊の行為が、全くできなくなるのである。

千年期

預言者イザヤは、サタンが滅びるときを予見して、次のように叫んだ。「黎明の子、明けの明星よ、あなたは天から落ちてしまった。もろもろの国を倒した者よ、あなたは切られて地に倒れてしまった。あなたはさきに心のうちに

言った、『わたしは天にのぼり、わたしの王座を高く神の星の上におき、……いと高き者のようになろう』。しかしあなたは陰府よみに落され、穴の奥底に入れられる。あなたを見る者はつくづくあなたを見、あなたに目をとめて言う、『この人は地を震わせ、国々を動かし、世界を荒野のようにし、その都市をこわし、捕えた者をその家に解き帰さなかった者であるのか』(イザヤ 14:12-17)。

サタンの反逆行為は、六千年間「地を震わせ」た。彼は、「世界を荒野のようにし、その都市をこわし」「捕えた者をその家に解き帰さなかった。」六千年の間、神の民は、彼の牢獄に入れられてきた。サタンは、彼らを永遠にその場所に捕えておきたかったのであるが、キリストは彼の鎖を断ち切り、捕われている人々を解き放って下さったのである。

今となっては、悪人たちでさえ、サタンの力の及ばないところに置かれている。サタンは悪

天使たちとだけ取り残されて、罪がどんな結果をもたらしたかを悟る。「もろもろの国の王たちは皆尊いさまで、自分の墓に眠る。しかしあなたは忌みきらわれる月足らぬ子のように墓のそとに捨てられ、……あなたは自分の国を滅ぼし、自分の民を殺したために、彼らと共に葬られることはない」(イザヤ 14:18-20)。

千年間、サタンは荒廃した地上をさまよい、神の律法に対する反逆の結果をながめる。この期間における彼



の苦しみは非常なものである。墮落以来、彼のとぎれることのない活動的生涯は、反省の余地を与えなかった。しかし、今や彼は、その権力を剥奪^{りやくだつ}され、最初に天の政府に反逆して以来、自分がしてきた行為について、深く考えさせら

れる。そして彼は、自分が行ったあらゆる悪と、犯させた罪に対する罰を受けなければならない恐ろしい未来を思って震えおののくのである。

サタンがこうしてつながれることによって、神の民には歓喜がもたらされる。「主があなたの苦労と不安とを除き、またあなたが服した苦役を除いて、安息をお与えになるとき、あなたはこのあざけりの歌をとなえ、バビロンの王(ここではサタンを表す)をののしって言う、『あの、しえたげる者は全く絶えてしまった。あの、おごる者は全く絶えてしまった。主は悪い者のつえと、つかさびとの^{しやく}笏を折られた。彼らは憤りをもってもろもろの民を絶えず撃っては打ち、怒りをもってもろもろの国を治めても、そのしえたげをとどめる者がなかった。』(イザヤ 14:3-6)

悪人の審判

第一と第二の復活の間の千年間に、悪人の審判が行われる。使徒パウロは、この審判を、再臨に引き続き行われるものとして提示している。「だから、主がこられるまでは、何事についても、先走りをしてさばいてはいけない。主は暗い中に隠れていることを明るみに出し、心の中で企てられていることを、あらわにされるであろう」(Iコリント 4:5)。ダニエルは、日の老いたる者が来て、「いと高き者の聖徒のために審判をおこなった」と言っている(ダニエル 7:22)。この時義人は、王、また祭司として支配する。ヨハネは、黙示録の中で次のように言っている。「また見ていると、かず多くの座があり、その上に人々がすわっていた。そして、彼らにさばきの権が与えられていた。」「彼らは神とキリストとの祭司となり、キリストと共に千年の間、支配する」(黙示録 20:4,6)。パウロが「聖徒は世をさばく」と予見したのは、こ

の時のことを指しているのである（I コリント 6:2）。彼らはキリストと共に悪人をさばき、その行為を法規の書すなわち聖書に照らし合わせて処理し、それぞれのなしたわざに従って、すべての者に判決を下す。その時、悪人は、それぞれのわざに応じて、受けねばならない苦しみが定められる。そして、それが、死の書の彼らの名のところに記録される。

サタンと悪天使たちも、キリストとその民によってさばかれる。パウロは、「あなたがたは知らないのか、わたしたちは御使をさえさばく者である」（同 6:3）と言っている。また、ユダは、「主は、自分たちの地位を守ろうとはせず、そのおるべき所を捨て去った御使たちを、大いなる日のさばきのために、永久にしばらくつけたまま、暗やみの中に閉じ込めておかれた」と言っている（ユダ 6 節）。千年期の終わりに第二の復活がある。その時に、悪人はよみがえらされ、「記された審判」の執行を受けるため、神の前

に現れる。こうして、黙示録の記者は、義人の復活を描写した後で、「それ以外の死人は、千年の期間が終わるまで生きかえらなかった」と言っている（黙示録 20:5）。そしてイザヤは、悪人について、「彼らは囚人が土ろうの中に集められるように集められて、獄屋の中に閉ざされ、多くの日を経て後、罰せられる」と宣言しているのである（イザヤ 24:22）。

もっと詳しく知りたい方のために、
大争闘小冊子シリーズの完全版

“キリストとサタンの大争闘”



E. G. ホワイト著

ポケット版 400円

各時代の人類歴史に展開されてきた善と悪、真理と誤謬の大争闘の真相と悪の勢力の陰謀と策略を明らかにし、それに勝利する方法、今起こっている諸事件と諸現象はどんな意味を持っているか、人類にどんなすばらしい未来が待っているか等々が解明されている必読の書！

お問い合わせ、お申込みは下記の連絡先まで

サンライズ ミニストリー

〒905-0428 沖縄県国頭郡今帰仁村字今泊1471

TEL(0980)56-2783 FAX(0980)56-2881

contact@srministry.com

www.srministry.com

大争闘小冊子シリーズ

- No.1 罪惡の起源
- No.2 サタンと人類の戦い
- No.3 悪魔のわな
- No.4 人は死んだらどうなるか？
- No.5 心霊術の正体
- No.6 現代キリスト教会の危機
- No.7 ローマ法王教の狙い
- No.8 差し迫った戦い
- No.9 ただ一つの防壁—聖書
- No.10 世界への最後の警告
- No.11 大いなる悩みの時
- No.12 神の民の救出
- No.13 平和な千年期は来るか？
- No.14 大争闘の終結



サンライズ ミニストリー

〒905-0428 沖縄県国頭郡今帰仁村字今泊1471

TEL(0980)56-2783 FAX(0980)56-2881

contact@srministry.com

www.srministry.com